

校内研究の成果と課題

今年度は、来年度完全実施となる特別の教科道徳に焦点を当て、「自ら考え、判断できる児童の育成を目指して」を研究主題に取り組みを進めてきた。道徳性を養うための授業実践を通しての副主題のもと、道徳の授業について見直し、授業改善を図ることで、児童が深く考える道徳の授業にしていくことができ、来年度実施に向けた準備ができたと思う。

今年度、児童が主体的に考える授業に迫りたいと考え、取り組んできた。その研究の成果と課題は次の通りである。

【成果】

① 「特別の教科道徳」が目指しているものを理解し、授業づくりに生かす。

講師を招聘して理論研究を進めることができた。教科化になった経緯や、特別の教科になった意味、道徳の教科化の趣旨等を理解することができた。また、目指すべき道徳の授業のビデオを見ることで、道徳の授業のイメージが湧き、授業づくりの際に気を付けることなどを理解することができた。分からないことを質問して解決し、授業づくりに生かすことができた。

② 評価や教育課程編成についての理解を深め、充実した教育課程の編成を行う。

来年度に向けて、道徳教育の全体計画の見直し、教育課程の編成や別葉の作成も行った。来年度完全実施にあたり、準備をすることができた。来年度は、道徳の授業を進めていきながら、別葉の更なる見直しも行っていく必要がある。

③ 授業実践を行い、その成果と課題を洗い出し、次年度に生かす。

学年全体で、指導案を検討し、授業を行ったため、子どもたちの実態に合った指導案を検討することができ、実践できた。実践してみて、それぞれの学年での発達段階に応じた成果と課題を見つけることができた。また、一人一人が実践することで、道徳の授業力のスキルアップに繋がった。

・家庭や地域との連携を図り、道徳性を養うための日常的な取り組みを実践する。

授業参観で道徳を取り上げたことで、学校全体で道徳の研究をしていることが伝えられ、家庭や地域への啓発に繋げることができた。また、家庭に帰ってから親子で道徳の授業について話す機会にもなった。

・教材開発を行う。

学年で共通の内容を行うことで、指導案や教材について考えることができ、授業参観においても有効に使用することができた。各学年、子供たちの実態に応じた教材開発ができた。

【課題】

- ・児童がより多面的で多角的な見方へと発展しているのか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているのかの見取りをどうするのか、そのための方法などの研究も必要であると感じる。児童が考え、議論する道徳を目指した授業づくりも日々の実践を重ねながら行っていきたい。
- ・今年度は、評価については、あまり研究ができなかった。来年度に向けて、評価については、研究していく必要がある。学校全体で道徳的価値の理解について、それぞれの発達段階における理解の系統を確認し、その上で評価をしていかなければならないと考える。そのための研究が必要であろう。
- ・児童が日常生活において、道徳的な判断力により行動できているかは疑問である。自分たちで考え、判断し行動できるように日常的な取り組みも必要である。また、家庭や地域への啓発活動として、学年便りなどの活用も考えられる。